

駒牽
名稱

儀式
四月駒牽

〔三代實錄清和〕貞觀七年十二月九日丙辰、停廢讚岐國三野郡託磨牧、

〔倭訓栞中編八〕こまひき 駒牽の義、八月信濃、甲斐、武藏、常陸、上野等の國より、禁中に牧の馬を貢獻するをいふ、是勅使の駒牽也、

〔倭訓栞前編九〕こまむかへ 駒迎也、八月の儀式に、諸國の牧より牽來る馬を逢坂まで迎に出るをいふ也、十五日より廿日迄なり、

〔本朝月令四月〕廿八日駒牽事小月用廿七日

弘仁馬寮式云、四月廿七日御覽駒式、右當日早朝調列、櫛飼御馬、車駕幸於射殿、登時官人牽御馬、自便門出、至於馬出埒、下頭御馬名奏進於御監、御監即執奏而後、頭助左右陣立於御馬之前、允一人執馬、籥進立殿前、乃從埒西、外御馬陣稍進、比至御前、奏馬名、詞曰云々、貞觀馬寮式云、四月廿七日御覽駒式、前式當日早朝調列、櫛飼御馬、今案、櫛飼一疋、云々、頭助左右陣立、今案、左右、度盡退出、次右寮御馬、如前度畢、今案、左右、陣立云々、

〔九條年中行事四月〕廿八日駒牽事小月廿七日又見

〔北山抄四月〕廿八日駒牽事此日雅樂寮奏、蘇芳、非、駒形、依、右近府、奏、高麗、犬、歟、節、日、并、六、日、或、奏、狗、犬、

〔年中行事秘抄四月〕廿八日駒引事小月廿七日、近代不行、

〔公事根源四月〕駒牽

廿八日

これは四月に侍る事なり、八。月。の。も。名。は。お。な。じ。け。れ。ど。心。は。か。は。れ。り。天。皇。武。德。殿。に。幸。す。王。卿。以下床子につく、左右の御監、御馬の奏をとる、馬頭庭にわたり御馬を引渡す、白馬の節會のごとし、近衛兵衛、野射手南にわたり、四府騎射の文を奏す、左右大將これを奏聞す、近衛少將以下、番長以上六人、あづま遊を奏す、右近衛、納蘇利、狗犬をそうす、雅樂寮、蘇芳、非、駒形を奏す、此駒牽は來月の